

平成26年度 自 己 評 価 表						鳥取県立鳥取工業高等学校	
中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標		1. 基礎学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	評 価 結 果 3 月	改 善 方 策	
1 基礎学 力の向 上	① 授業改善と 学力の定着	【授業評価アンケート結果及び活用】 ・生徒の授業満足度は概ね良好 ・学習状況や理解度向上傾向 ・授業改善に活用 ・研修会の情報を共有 【基礎力診断テスト結果及び課題】 ・基礎力不足層の減少傾向 ・意欲喚起に課題 【全国工業高校校長会主催標準テスト結果】 ・成績向上に課題 【「5S」「あさひ」の取り組み】 ・全体的には定着 ・授業前の着席・挨拶は改善 ・授業前の教材準備の徹底に課題 【公開授業】 ・多くの教科で実施の状況に課題 【学習環境の整備】 ・ロッカー内、上の整備向上 ・授業前の着席、挨拶改善 ・教科書等の準備に課題	【授業改善】 ・教科指導の研究と授業改善 ・ICT活用によるわかりやすい授業づくり ・生徒の意見を引き出す問いかけ ・コミュニケーション能力が向上する指導 【基礎学力の育成】 ・(工業科)専門教育へ対応できる基礎的な数学力の育成 ・生徒個々の能力の伸長 【学習環境の整備】 ・基本的な学習習慣の確立(「5S」「あさひ」の徹底)	【授業改善】 ・学力向上委員会を中心に具体的な取り組みの提案 ・プレゼン等を活用した授業の増加 ・ペア学習やグループ学習を実施 ・各種研修会への参加及び内容を共有 【基礎学力の育成】 ・(工業科)数学基礎演習(1年生)の実施と傾向把握放課後の補習実施 ・個別指導の充実・課題、小テストを実施 【学習環境の整備】 ・教室美化・授業開始前の学習準備・着席・挨拶の徹底・提出物期限厳守の徹底	【授業改善】 ・一斉学習からの転換を図ることを目的に、講師を招いて職員研修会を実施 ・各種研修会への参加報告会を実施し、情報を共有 【基礎学力の育成】 ・補習を実施し、基礎学力の定着を図ったが、成果は不十分 ・基礎力診断テストの分析をフィードバックし、3年生は学力レベルが向上 ・個別指導を実施し、個々の進路希望に対応 【学習環境の整備】 ・実習を中心として、環境整備指導を実施 ・授業開始時における準備や提出物の遅れ指導はさらに指導の必要	B	
	② 主体的な学 習態度と実 践力の育成	【進路行事等の取り組み】 ・適宜、担任・教科担任で面談 ・声かけ等を実施 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 【生徒の学習状況(自宅学習調査結果等より)】 ・概ね昨年度より学習時間が増加 ・一部の科で学習スペースを開放(学校での自主学習) ・課題提出等期限厳守に課題 【シラバス】 ・評価基準 ・方法を周知	【学習意欲の喚起】 ・各分掌・教科の諸活動を通して生徒の学習意欲を喚起 ・進路・学習目標の確立を支援し、自宅学習の習慣化を促進 ・学習規律の確立	【学習意欲の喚起】 ・各種試験・適性検査・外部進路行事等の活用と面談の実施 ・シラバスの活用・課題テストの実施・自宅学習調査(年2回)の実施と分析 ・教室美化・授業開始前の学習準備・着席・挨拶の徹底	【学習意欲の喚起】 ・年度当初と夏休み明けに、担任と教科担任で面談を実施し、学習状況を確認 ・自宅学習課題を設定し、自宅学習が習慣化 ・放課後の学習スペースとして実習室を開放し、放課後学習が一部で習慣化 ・資格を紹介し、補習を積極的に実施したことにより、学習に対する意欲が向上 ・教室美化や授業開始前後の挨拶は定着、授業準備はさらに指導の必要	C	
2 豊かな 人間性 の育成	① 互いを尊重 する態度と 社会性の涵 養	【性教育】 ・WYSH教育 全教職員で理解深化 【ハイパーQ.U】 ・職員研修で、全職員に周知 ・LHR・面談等に結果を活用 【いじめアンケートの活用】 いじめ問題に早期に対応 各教科でも人権教育を推進 生徒が相談しやすい環境の整備に課題 【人権教育校外研修「一人一研修」】 ・情報をもとに速やかに対処 ・一人一研修の取り組みが不十分	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ・生徒の自己肯定感・自己受容感の向上 ・共に認め合い、互いの個性を尊重しあえる人間関係の構築 【人権教育の推進】 ・教職員研修を通して自己の振り返り ・教職員間連携、関係機関との連携による問題の早期対応	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ・人権教育・性教育LHRを実施した結果、人権意識が高揚し他者の人権・存在を尊重する態度の育成 ・性教育LHR、WYSH教育LHR(1年生)の実践 ・ハイパーQ.Uアンケートの分析・活用、生徒理解、クラスの目標の設定、集団規律の形成 【人権教育の推進】 ・一人一研修を呼びかけ、ほとんどの教職員が校外の人権教育研修に参加(55人/63人 87.3%) ・いじめアンケート等において、生徒情報を把握し、職員間で共有、関係分掌が協力して生徒対応 ・専門機関との連携や各学年・各分掌との情報交換を実施	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ・人権教育・性教育LHRを充実し、他者の人権・存在を尊重する態度を育成 ・性教育LHR、WYSH教育LHR(1年生)を実施 ・ハイパーQ.Uアンケートの分析をし、クラスづくりへ活用 【人権教育の推進】 ・一人一研修を積極的に呼びかけ、講演会等の情報を発信 ・いじめアンケートなどを通じて生徒情報を把握し、関係分掌と情報を共有 ・担当者以外の教職員と専門機関との連携を一層強化	B	
	② 健全な心身 と社会貢献 精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ・指導を徹底「5S」「あさひ」は概ね定着 ・挨拶、遅刻は改善傾向 【ボランティア活動】 ・活発化(H25年度:テクノボランティア12名、砂丘ボランティア50名、とっとりサイエンスワールド46名、県社協主催ボランティア14名、児童福祉施設ボランティア4名等) 【部活動、生徒会活動】 ・各種活動(高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、中庭の花植え、校内美化、携帯・インターネットを考えるフォーラム等)に参加 【環境改善】 ・校内環境整備(花木の剪定と除草)へ保護者・生徒が多数参加 【安全教育】 ・全職員による朝の交通指導実施 交通安全教室を実施 実験・実習器具等の取り扱い指導の徹底 ・SNS等の取り扱い問題に対応 校内での携帯電話の取り扱いに課題	【基本的生活習慣の確立】 ・自ら挨拶ができる生徒の育成 【ボランティア活動の推進】 ・社会の一員としての自覚思いやりの心を育成 【部活動や生徒会活動の推進】 ・各種活動への参加意識向上 【環境改善】 ・環境改善の意識向上、取り組み強化 【安全教育の推進】 ・交通ルールへの順守意識の向上 ・携帯電話ルールの順守	【基本的生活習慣の確立】 ・日々の授業や学校行事を通して啓発 【ボランティア活動の推進】 ・テクノボランティアを夏季、冬季も実施し(高齢者住宅4軒、参加生徒20名)、多くのボランティアに積極的に参加 【部活動や生徒会活動の推進】 ・各クラス役員の活動の活性化 【環境改善】 ・TEAS講演会、環境LHR等の実施 ・ごみの分別、節電・節水の取り組み強化、啓発活動の充実 【安全教育の推進】 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室の開催 ・携帯電話マナー講習の開催	【基本的生活習慣の確立】 ・日々の授業や学校行事をとおして、「5S」「あさひ」の啓発を実施 【ボランティア活動の推進】 ・テクノボランティアを夏季、冬季も実施し(高齢者住宅4軒、参加生徒20名)、多くのボランティアに積極的に参加 【部活動や生徒会活動の推進】 ・各クラス役員の参加行事数が増加 【環境改善】 ・TEAS講演会、環境LHRを実施 ・環境LHRなどを通じ、ごみの分別や節電・節水を促進 【安全教育の推進】 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室を開催し、交通マナーや薬物の危険性など指導 ・非行防止教室を実施 ・携帯電話マナー講習を開催	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」「あさひ」を、学校生活全般で啓発 【ボランティア活動の推進】 ・テクノボランティアや家庭クラブ活動への参加推奨を継続 【部活動や生徒会活動の推進】 ・部活動や生徒会活動への参加させる活動の場の設定を増加 【環境改善】 ・TEAS講演会、環境LHRを実施し、環境に対する意識の育成 ・環境LHRをとおして、ごみの分別や節電・節水の取り組みを強化 【安全教育の推進】 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室を開催し、交通マナーや薬物の危険性などの理解促進 ・携帯電話マナー講習会を開催し、マナーについて一層意識の向上	B
3 キャリア 教育の 充実と生 徒の進 路実現	① 専門的な知 識・技術の 習得	【「工業技術基礎」(共通実習)】 ・事前指導時間を充分確保(昨年度比3倍) ・時間厳守は改善 意義理解度は向上 ・レポート内容が充実 【人材育成】 ・(工業)計算技術検定合格126/148名(85.1%(昨年84.8%)),若干上昇 危険物取扱者乙4合格11/90名(12.2%(31.3%)),大幅下降 初級CAD検定合格14/37名(37.8%(39.5%)),若干下降等 (その他模検・英検・数検等の資格試験を奨励 対策補習や模擬テストを実施 改善点一減検:2級合格2名,昨年度0名 英検:受験者増 ・企業見学 企業19社、短期大学1校、4年制大1校、建設現場7件、施設見学2件、昨年度同様 鳥工版デュアルシステム (機械科2名、電気科6名、協力企業数4社、昨年度比7名減、1社減) インターンシップ事前打ち合わせが充実 3S(整理・整頓・清掃)は改善傾向 実習・課題研究を中心に、「ものづくり」マインドの育成を推進 県高校生ものづくりコンテスト優勝(電気工事業部門、電子回路組立部門、本年度中国大会出場)	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート、作品等の提出期限厳守 ・レポートの書き方と内容の充実 【人材育成】 ・一人一資格・検定の取得 ・専門知識や技術・技能の習得 ・「守ることを決めて、決めたことを守る」 ・ものづくり精神の継承	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・定期的な提出状況確認と提出遅れ指導の実施 ・担当者によるレポート内容に関するコメントの記入 ・再提出指導の実施 【人材育成】 ・資格・検定ガイドブックの作成と取得指導への活用 ・早朝、放課後補習の実施 ・早期受験案内の実施 ・体験活動の充実 ・鳥工版デュアルシステム、企業見学、インターンシップ、社会人講師による授業等の実施 ・事前指導の実施と徹底 ・「5S」「あさひ」活動の充実 ・実技を伴う授業終了時の整理・整頓・清掃活動の実施 ・各事業毎での事前指導の実施と徹底 ・ものづくり活動の強化 ・人材の確保 ・先輩から後輩への技能の継承	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・例年と比較し、さらにレポート内容指導の必要、期限内の提出ができない生徒が多数あったが、各担当科で提出・再提出の指導を行い、改善傾向 【人材育成】 ・資格・検定ガイドブックについては、4月中旬に配布 ・計算技術検定では、科、学年が連携し、朝読書時に取り組み、また、他の資格に対しても早朝、放課後補習を多くの科で実施し、一人一資格取得を概ね達成(測量士補4名合格、計算技術検定合格率85%) ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施、企業見학을工業関連企業19社・学校関係9校・公共施設6箇所で実施、インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナーの徹底を指導 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓、清掃は各科とも定着 ・ものづくりコンテスト中国大会の2部門に各1名出場、電子回路組立部門で3位入賞と健闘	【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容の赤ペン指導やコメント記入等の粘り強い指導や提出期限厳守の更なる徹底 【人材育成】 ・生徒に資格・検定ガイドブックの内容をさらに周知 ・全生徒の一人一資格を達成のため、資格取得の早朝・放課後補習を更なる充実 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容を精選・充実 ・整理・整頓、清掃を各科でさらに徹底 ・ものづくりコンテストの県内大会上位入賞、中国大会出場のための指導を推進	C
	② 職業意識の 育成と進路 指導の徹底	【職業意識の育成】 ・社会人としてのマナーや進路意識の向上 ・社会人講師事業は効果大 ・関西研修旅行で生徒の進路意識向上 【進路指導の徹底】 ・進学補習実施 ・ハローワークや進路支援企業と連携 ・個別指導(履歴書指導等)が充実 ・内定率99% ・1・2年で進路目標設定面接指導の強化が必要 面接指導を徹底 ・基本的生活習慣指導を強化 状況は改善中 一層徹底が必要 ・進路ガイダンスを実施 欠席者が多く参加人数が激減 ・模擬面接会を実施	【職業意識の育成】 ・企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じて職業観、勤労意識の向上 【進路指導の徹底】 ・就職は一回目の選考試験合格率70%以上、進学は10名以上の国公立大学合格 ・生徒の進路を保障するために学力及びコミュニケーション能力の向上	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、研修旅行、応募前見学、社会人講師等を実施 ・ハローワーク、進路支援企業等と連携した進路ガイダンスなどの進路行事を開催 【進路指導の徹底】 ・進学補習、個別指導、作文指導等を実施し、学力向上 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・進学対策会議を開催し、より生徒に適した進学先を提案 ・ハローワークなどの協力を得て、面接指導を実施 ・個別進路面接を2年の3学期から開始 ・10人面接、各科の面接指導、担任面接をより充実 ・個別進路面接を2年の3学期から開始 ・進路希望調査を2回から3回に増やし、懇談等ででの活用を促進	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 【進路指導の徹底】 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・一次採用試験合格率が82.4%となり、去年より10%以上向上 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーの定着 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・理数工学科3年の進学検討会を11月・1月に実施 ・個別進路面接を2年の3学期から開始 ・8月に新たに進路最終決定PTA懇談会を実施 ・10人面接の早期実施、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・進路希望調査を1、2年は3回、3年は2回実施し、結果活用	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を継続するとともに、進路LHRの一層の充実 ・各学年に適切な進路行事を積極的に実施 ・高大交流事業・大学訪問を継続実施し、進路意識の向上 【進路指導の徹底】 ・進学補習、個別指導、作文指導を継続実施し、学力向上に努力 ・サマーサイエンスセミナーの定着 ・外部模試の結果を早期に周知し、対策をたてて指導法等に継続活用 ・進学検討会を継続実施するとともに内容を充実 ・個別進路面接を実施し、進路意識を向上 ・8月に進路最終決定PTA懇談会を実施し、保護者との連携を推進 ・10人面接等の各種面接指導を早期実施 ・進路希望調査について充実を図り、進路意識の高揚	B
③ 地域や産業 界との連携 強化	【人材育成】 ・各事業の効果大 ・企業との連携を強化 【情報発信】 ・津ノ井地域へPTAにより配布 ・学校HPの充実 ・とっとり産業フェスティバルやマスコミへ情報提供 ・科の内容を中学生や高校生へアピール(中学生体験入学や鳥工TEC等) ・学校情報サイト「まちCOMIメール」が浸透 【地域との連携】 ・各行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ・保護者との積極的な連携 各PTA活動が充実 ・学校祭や体育祭等への保護者参加大幅増	【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 【情報発信】 ・地域や小・学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップや鳥工版デュアルシステムなどを通じて企業ニーズに応える人材育成 【情報発信】 ・出前授業やテクノボランティアの実施や、HP等での情報発信 ・まちこみメールの活用により学校行事の保護者参加増の促進 【地域との連携】 ・テクノボランティアや桜ヶ丘グリーンゾーン活動等の貢献活動の充実 ・津ノ井地域懇談会を通じて地域とより一層の交流 【PTA活動の推進】 ・各事業への保護者の参加増によりPTA活動の活性化	【人材育成】 ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 【情報発信】 ・各事業の実施や学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津ノ井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数6校)や中学生体験入学、鳥工TEC等の実施により科の内容を中学生へPR 【地域との連携】 ・津ノ井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事をとおして、地域との連携が強化 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールや保護者との連携により学校行事への保護者参加が30%以上増加	【人材育成】 ・各事業の継続実施と生徒への事前事後指導の強化 【情報発信】 ・各事業の継続実施や学校HPのより一層の更新頻度の向上 ・出前授業の充実 ・鳥工TECの内容を中学生や地域へより一層のPR 【地域との連携】 ・各事業の継続実施 ・あいさつ運動の一層の推進と展開 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールやHPを充実することで、PTA役員との連携による保護者参加者数のさらなる増加	B	

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・親 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く
WYSH教育:性に関する教育
ハイパーQ.Uアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート
デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]